

五木村農地利用最適化運動

農委会名：五木村農業委員会

1 地域の概要

五木村は九州山地の西南端に位置し、14年連続水質日本一に輝いた川辺川が村の中央を流れ、1,000m級の山々が連なる山間地域である。村の総面積252.92km²のうち山林が96%を占め集落は点在し、令和5年3月末現在の人口及び世帯数は966人・473世帯、高齢化率が49.5%である。

道の駅の物産館では出荷協議会を組織し、それぞれの農産物や加工品を道の駅へ出荷しながら、ニンニクや米の生産組合など個々の部会でも生産拡大に向けた検討・実践が続いている。村でもソバ耕作者に対する支援のほか、在来柑橘「くねぶ」の特産化に取り組んでおり、農産物生産事業や鳥獣被害対策等に補助金を設けるなど支援や強化を図っている。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員のみ 6人（うち認定1人、女性1人）
- (2) 事務局体制 3人（兼任）

3 掲げた目標

非農地化の推進

目標面積 1.0ha

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

農地利用状況調査の精度向上のために航空写真を利用し、現地調査の前に山林化の激しい農地の特定を行った。また狭小な農地が集まっているや目視では山林との境界が分からなくなっている農地に対してはGPS測量機を用いて正確な調査を実施した。



【有休農地の位置特定作業】



【利用状況調査】

別紙様式①

5 取組みの成果

非農地判断面積 2.1ha

6 課題と今後の方針等

五木村では今後ますます農業者の高齢化や後継者不足が進み、山間部の農地の復旧が困難な状況となっている。適切な非農地判断を実施しながら、守るべき農地を明確化し、優良農地の確保、担い手への集積・集約化に努める。